

様に思いました。私自身、そもそも色鉛筆は塗り絵という幼稚さを感じさせる画材と思っていたので、先生並びに色鉛筆画に携わっている人たちの作品を拝見した時は鳥肌が立つほどの衝撃を受けたことを今でも覚えています。私はためらいもなくすぐクラブに入会を希望しました。お陰様で今では多くの方々と知り合いになれ、特に新日美で活躍されている今は名誉会員の桜井力先生のお誘いを受けて新日美展に参加させて頂くことが出来ました。

初年度は絵画で東京都美術館に展示されるのが夢のようで信じられませんでした。二年目からはあまり無理はできないのですが工芸部門にも出品させて頂き、新人賞という大きな賞を頂戴し感謝申し上げます。宮嶋支部長始め支部の皆様には身近でお世話になり有難うございました。これからも精進し頂戴した賞に恥じない作品造りに勤めて参りたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

覗いてしまった別の世界

辺見昭彦

定年を機に興味を何か一つ増やしたく、カルチャーセンターで、特許の取り方教室に応募したが、残念ながら応募人員不足で中止になりました。やむを得ず数あるメニューの中から安易に、初歩の油絵「選」を選ば、これが絵を描くきっかけでした。

画材は何一つ無く全て買い揃えました。が、ド素人ですから絵画教室では失敗の連続でした。静物の時間ではよく観て描くように、裸婦デッサンでは見とれてないで早く描く様に注意され赤面の至りでした。毎日が日曜日ですから時間もあ



八ヶ岳スケッチの旅先にて

りましたので、都内の絵画展へ頻りに通い図書館、書店も梯子したり、喫茶店では乱読したりで今思うと楽しく充実した時間でした。名画に触れる度、自分の絵画に対する無知さを思い知らされました。好きな画家はフェルメールとラファエロです。

絵画活動も4年目に入り海外の風景も描きたくなり仲間と出向きました。水の都「ベネチア」、中世の「ブリュージュ」、悠久の水郷地帯「蘇州」等は絵になる所が多く再訪したい街です。

絵画生活五年目、埼玉県展に入選、六年目に新日美展入選、地元での絵画展も年に5〜6回と増え徹夜で描くこともありました。その後お陰様で新日美展では会長賞、特選、芸術新聞社賞他賞を頂ける様になり、ご指導に有難く感謝しております。

5年前癌で、胃を全摘し、三途の川を渡る所でしたのもう徹夜で絵を描くことは止めました。退院1年後、地元で個展を開催し、駄作ばかりでしたが枯れ木も山の賑わいで100点程展示し約800名のご来展を賜りました。

趣味のゴルフは五十年になります。が、絵画も趣味の一つに昇格し、今では多くの仲間、妻共々楽しく絵を描いています。

美術・アート・観てある記

カラヴァッジョ展

小高峯夫

二年前になるが、東京上野の国立西洋美術館でカラヴァッジョ展を観た。特別興味があったわけではなく招待券を頂いたので勉強の意味で拝見した。

カラヴァッジョとはどういう画家か私は知らなかった。鑑賞していくうちに大変な人物であることを知った。破天荒な振る舞いで殺人まで犯し、太く短く生きた天才で絵画史においては後にベラスケス、レンブラント、フェルメールといった巨匠にまで影響与えたといわれている。今、私は作品より彼の波乱万丈の人生に興味をもった。

カラヴァッジョは1597年イタリア、ミラノ付近カラヴァッジョの生まれ、本名ミケランジェロ・メリジ。六歳の時父親をペストで亡くし、十二歳の時ミラノの画家に入門し絵の修行を始める、その後母親を亡くした後ローマに出るまでの数年何をしていたか不明のようだ。二十四歳の頃ローマの画家ロレンツォ工房にて風俗画家として頭角を現し、二十八歳の時縦横3300の大作「聖マタイの殉教」を描き脚光を浴びることになる、以後教会から次々と大作の注文を受けるようになる



出世作となった 3.3×3.3mの大作「聖マタイの殉教」

と傲慢な性格が始める。

気性は激しく素行悪で娼婦を買い、喧嘩早くと度々事件を起こした。当時のローマはしのぎを削る画家が集まりライバル意識が強く、相手に毒

を盛ることもあったという。

カラヴァッジョは剣に強い執着がありいつも携帯していた。二十九歳の時画学生を剣で襲撃する事件を起こし警察沙汰を起こしている。犬猿の仲の画家ジョヴァンニ・パオリーネを誹謗中傷する卑猥な詩を回覧したり、居酒屋の給仕暴行事件、警官に石を投げつけるなどで逮捕される事件。痴情のもつれで公証人を襲撃する事件など枚挙にいとまがない。そしてついに三十四歳の時仲間と地元顔役(娼婦の元締め)数人との乱闘事件を起こし相手を剣で刺し殺し、自らも負傷、ローマから姿をくらます。

絵の注文を受けるには特出した技量がなければ注文は得られないので、カラヴァッジョはこれまでになかった手法を駆使した。ルネサンスの理想的な美しさだけでなく、ややえげつない風俗的感情表現を取り入れた。例えば祭壇画なのに「聖ペトロの磔刑」では処刑を実行する刑吏達の姿は工事現場の労働者のようであり泥まみれの裸足を前面に描き入れ目立つようにした。一番特徴的なのは背景がほとんど暗闇で、強烈なコントラストで人物に光を当て緊迫感を際立たせるカラヴァッジョ独特の明暗法を駆使した。ドラマチックで写實的描写力は天性のもので当時の世相に広く受け入れられていった。

警察の捜索から身を隠すためカラヴァッジョは各地を転々とシナポリに潜伏した。カラヴァッジョの名声はここにも知れ亘っており色々な注文が無い込み制作に励んだ。その後も一ヶ所にとどまることはなく各地を転々としながら逃亡資金のため制作にいそしんだ。マルタ島では傑作の大作「洗礼者ヨハネの斬首」を描写している。しかしここでもいざこざを起こし逃亡生活が続いた。罪が許されるといふ噂に、ほのかな希望を抱きつつ船でローマへ向かったが途中病に倒れ三十八歳の生涯を閉じた。

カラヴァッジョがローマを去った後、彼の手法をまねる画家が続出、ヨーロッパからやってきた画家達もこれに続き、カラヴァッジョ主義はヨーロッパ中へ広まっていった。(芸術新潮2016-3を参考にしました)